姫路大学教育学部紀要　第 12 号（2019）

いかに生涯学習の「きっかけ」を提供するか
ー体験型・参加型コンサートを通してー

杉山　雄一

要旨

「生涯学習」の概念は，1965年，ユネスコの成人教育国際推進委員会に於いて，ポール・ラングランのワーキングペーパーによって提唱された，「生涯教育」の理念に端を発す。日本では，中央教育審議会答申･臨時教育審議会答申により，その意義が高らかに謳われ，以後徐々にではあるがその理念が国民の間に浸透していく。当初は混在していた「生涯教育」，「生涯学習」の用語も，臨時教育審議会答申・生涯学習振興法などにより「生涯学習」へと統一されていった。

ところで生涯学習では，自発的な行為による様々な年代での多彩な学習が期待される。しかし種々の都合により，なかなか生涯学習への第一歩が踏み出せないこともある。著者は，その足がかりとして，コンサートに於いて聴衆が音楽に能動的に関わることにより音楽への興味関心を誘い，それが生涯音楽学習への「きっかけ」となるような仕掛けを提唱する。本小論では，そのために実践した「体験型・参加型」コンサートの在り方を考察する。

キーワード：生涯学習，音楽，コンサート，体験，地域

１．はじめに

1965年，ユネスコの成人教育国際推進委員会に於いて，ポール・ラングラン[1]のワーキングペーパーによって「生涯教育」の理念が提唱されてから，すでに半世紀以上たつ。日本では，昭和56（1981）年の中央教育審議会答申によって「生涯教育」の意義が高らかに謳われ，以後徐々にではあるがその理念が国民の間に浸透していく。

内閣府の世論調査では，「生涯学習または生涯教育[2]という言葉を聞いたことがあるか」という質問に対し，昭和63（1988）年の調査で「ある」と答えた人は58.0%であった。しかし平成20（2008）年の同様の質問で「ある」と答えた人は80.5%と，22.5ポイント伸びている［内閣府：1988，2008］。一方，「過去１年の間に学習活動をしているか」という質問に対して，「学習活動をしている」と答えた人が昭和63（1988）年で40.1%，平成20（2008）年で47.2％と，6.1ポイント伸びているに過ぎない。数字だけをみると，言葉の認知度の割には学習活動が浸透していないように思われる。

一方この調査で「学習をしない理由」について理由を聞いたところ，表１のようになった［内閣府：2018］。

表１　生涯学習（教育）をしない理由

	昭和63年	平成20年	平成30年
1	仕事・家事が忙しい（67%）	仕事が忙しい（45.4%）	仕事が忙しい（33.4%）
2	特に必要がない（20.5%）	家事が忙しくて時間がない（18.9%）	特に必要がない（31.1%）
3	費用がかかる（14.4%）	きっかけがつかめない（16.4%）	きっかけがつかめない（15.8%）

ここで注目されるのが，平成20・30年の調査で「きっかけがつかめない」が３位に入っていることである。これは何を意味するか。「きっかけ」さえあれば生涯学習を行いたいという人々が一定の割合でいる，ということの裏返しではないか。では，どうすればそれらの人々に，生涯を通して自ら学ぶことの「きっかけ」を提供できるだろうか。拙稿では，ある「体験型・参加型」コンサートの実践を通じて，その方策を考察する。

２．音楽振興法と音楽文化創造

さて，「音楽による生涯学習」で真っ先に思い浮かぶのは，1994年に制定された「音楽文化の振興のための学習環境の整備等に関する法律」いわゆる「音楽振興法」である。この法律は，「多年にわたる音楽関係諸団体の強い要望を受け，衆・参両院における満場一致の賛同を得て」［嶋﨑：2010：10］制定された。その第１条には，下記のように書かれている。

> この法律は，音楽文化が明るく豊かな国民生活の形成並びに国際相互理解及び国際文化交流の促進に大きく資することにかんがみ，生涯学習の一環としての音楽学習（傍点筆者）に係る環境の整備に関する施策の基本等について定めることにより，我が国の音楽文化の振興を図り，もって世界文化の進歩及び国際平和に寄与することを目的とする。［嶋﨑：lbid：47］

この法律により，音楽による生涯学習の理念が謳われたのであるが，その理念を推進するために，1996年，（財）音楽文化創造[3]が設立されるに至る。その事業内容は，以下の通りである。

① 生涯学習音楽指導員の養成・認定
② 音楽技能検定の実施
③ 伝統音楽の推進
④「国際音楽の日」記念事業の推進
⑤ 国内における音楽文化活動の調査研究

なかでも「生涯学習音楽指導員」の養成・認定は同財団の主力事業である[4]。現在までに資格を取得した約1,400名が，全国で「音楽による生涯学習」推進のための事業を行っている。筆者も同資格

のA級指導員に認定されている。

「国際音楽の日」とは，ユーディ・メニューイン[5]が，紛争の絶えない国際関係を憂い提唱したものである。10月1日を「国際音楽の日」とし，その日には世界中の人々がお互いを愛するように努めること，あらゆる国や地域の人々が音楽でその日を祝うことを訴えたのである。1975年，カナダで開かれたユネスコの国際音楽評議会（IMC）による最初の世界音楽週間に於いて提案され，1977年チェコで行われたIMC総会で可決，制定された。日本では音楽振興法第7条により10月1日を「国際音楽の日」とすることが定められ，以後毎年各地で多彩な催しが行われるようになった。

３．全国生涯学習音楽指導員協議会兵庫支部の活動

全国生涯学習音楽指導員協議会兵庫支部[6]（以後「兵庫支部」と呼ぶ）は，音楽による生涯学習推進のために作られた「生涯学習音楽指導員」の全国組織の兵庫支部で，発足時から，主に青少年の育成に力を入れた活動を行ってきた。筆者は現在，その代表を務めている。主な事業内容は以下の通りである。

表２　全国生涯学習音楽指導員協議会兵庫支部の事業内容

2005～2009年	文科省委託「地域子ども教室推進事業」･「音楽っ子塾」・「放課後活動支援モデル事業」開催
2009～2010年	（公財）伝統文化活性化国民協会助成による伝統文化子ども教室「宝塚子どもお箏教室」開催
2011～2013年	西宮市協働事業助成による「西宮子ども音楽セミナー」開催
2014～2019年	子どもゆめ基金助成による「西宮子ども音楽セミナー」開催
2010～2019年	芸術文化振興基金・音楽文化振興基金・阪神南ふるさとづくり応援事業助成などによる「国際音楽の日」記念コンサート開催

同団体の活動は決して大規模ではない。しかし15年にわたる「西宮子ども音楽セミナー」，10回を数える「国際音楽の日」記念コンサートなど，地域に密着した形で活動を行っている。活動地域は，主に西宮市である。本年も夏休みに，小学生を対象とした西宮子ども音楽セミナー「ヴァイオリンとダンスの体験ワークショップ」を開催，また9月8日には「国際音楽の日」記念コンサートを行った。

西宮市は2019年4月現在人口48.7万人，大阪府と兵庫県県庁所在地の神戸市に挟まれた阪神地区の一角にある。1963年，「文教住宅都市宣言」を行い，「良好な住宅地と恵まれた教育環境を活かしたまちづくり」を進めてきた。自ら「文教住宅都市」と名乗るほど，文化芸術･教育に関心の高い街として，自他共に認める地域である。市内の交通の要衝である阪急電鉄西宮北口駅前には兵庫県立芸術文化センターがあり，連日，音楽・演劇の催し物が行われている。その稼働率は100%に近く，驚異的に高い。

このような街で求められるコンサートとはどのようなものであろうか。たまに着飾り，すばらしいホールへコンサートを聴きに行くのも1つの音楽の楽しみ方かもしれない。しかし，誰でも気軽に会場に足を運び，聴くことのできるコンサートも必要であろう。また，通常催されるコンサートは「聴いて楽しむ」ものであり，音楽の楽しみの一側面を享受しているに過ぎない。聴衆が積極的に参加可能で，地域の人々の交流の場となるようなコンサートを開催することで，生涯音楽学習のきっかけを提供することができるのではないだろうか。

さて，兵庫支部は「国際音楽の日」記念事業の一環として，「国際音楽の日」記念コンサートを毎年開催している。その実施にあたっては，次の3点を念頭に企画を立ち上げ，運営を行っている。

1．体験型コンサートの開催により，地域の人々に従来とは異なる音楽の楽しみ方を提案すること。
2．大学生・高校生と連携し，ボランティアとパフォーマンスをお願いすることにより，地域の人々との交流を促進すること。
3．入場に年齢制限を設けないことにより，多世代が交流できるイベントにすること。

本年は加えて，「参加型コンサート」のプログラムを企画し，生涯音楽学習への更なるきっかけ作りを用意した。なおコンサートに先立ち，前述のように，ヴァイオリンとダンスの体験ワークショップを行っている（8月3・18日の2日間開催）。このワークショップでは，地域の大学である大手前大学ダンス部にダンス指導を依頼した。練習したダンスを，「国際音楽の日」のコンサートで披露しようという企画である。これも，コンサートに参加し，音楽を楽しむきっかけ作りと考えて良いであろう。なお，本年のワークショップ参加児童は，33名であった。

４．コンサートの実際

コンサートは，2019年9月8日（日）に，大手前大学さくら夙川キャンパス（西宮市御茶家所町）内にある，フォーラムホールで行った。当日のチケット入場者は91名，他に体験ワークショップを受講し，「パプリカ」ダンスに出演する小学生30名が聴衆として参加。プログラムは以下の通り，括弧内はパフォーマーである。

①弦楽四重奏（明石フィルハーモニー管弦楽団メンバー）
　愛の挨拶
　美しきロスマリン
　ハリー・ポッター・メドレー
　村祭
②箏曲演奏（御影高等学校箏曲部）
　螺鈿（らでん）
　鷹
③ヴァイオリン・箏の体験コーナー
④みんなで歌おう
　島人ぬ宝
⑤鍵盤ハーモニカアンサンブル（ポピンズ＆トロイメント）
　スーパーカリフラジリスティックエクスピアリドーシャス
　アンダー・ザ・シー
　オー・シャンゼリゼ
⑥みんなで演奏しよう
　聖者の行進
⑦「パプリカ」ダンス（体験ワークショップ受講生）

さてコンサートを開く時，演奏の中身もさることながら，プログラムの選曲が重要になる。この「国際音楽の日」記念コンサートのコンセプトは，体験型・参加型コンサートである。全てのプログラムに於いて「体験・参加」の要素が入っている必要はないが，選曲には工夫が必要となる。

①の弦楽四重奏は，筆者が第１ヴァイオリンで演奏に加わった。演奏曲目の選定について，他のパフォーマーのプログラムも参考に，以下の選定基準を設けた。

・様々なジャンルの曲を盛り込むこと。

・持ち時間15分の間に１曲程度「参加」の要素があること。

これらを考え合わせ，クラシック２曲，スクリーンミュージック１曲，文部省唱歌１曲とした。

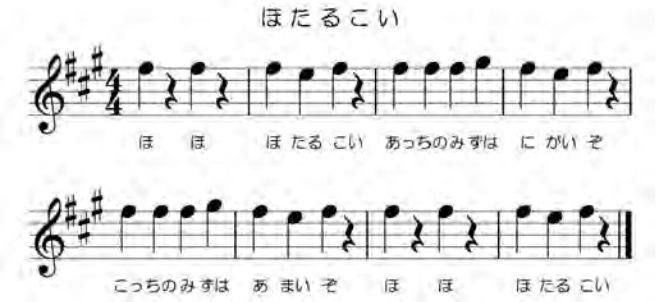
クラシックはよく耳にする有名な曲で，演奏時間約２分30秒と短く，集中して聴くことができる。「ハリー・ポッター」は映画やテーマパークでおなじみの曲である。

参加型の曲としては，秋という季節も考え合わせ，文部省唱歌の「村祭」を選んだ。この曲は，歌詞に「どんどんひゃらら～」という太鼓の音と笛の音を表す擬音語がある。その「どん」の所で太鼓を模して音を出してもらう。つまり「足を踏む」または「手を叩く」ことで演奏に参加することになる。弦楽四重奏のパフォーマーも立って演奏（チェロ以外）し，足で床を鳴らし太鼓を模することで，聴衆との一体感が生まれる。

②箏曲の「螺鈿」，「鷹」は，箏の名演奏家沢井忠夫[7]の作品である。御影高等学校箏曲部の生徒７人により演奏された。箏曲部の全員が高校に入ってから箏を始めたとのことだが，ひたむきさが伝わってくる演奏であった。ところで箏といえば，正月や茶席などで流れてくる「さくらさくら」などの日本古謡がイメージされるが，沢井の作品は現代的なリズムと音使いで作曲され，迫力のあるものだった。これらの曲を聴くことで箏のイメージが変わった，という意味では，聴衆は新しい体験をしたということになるであろう。

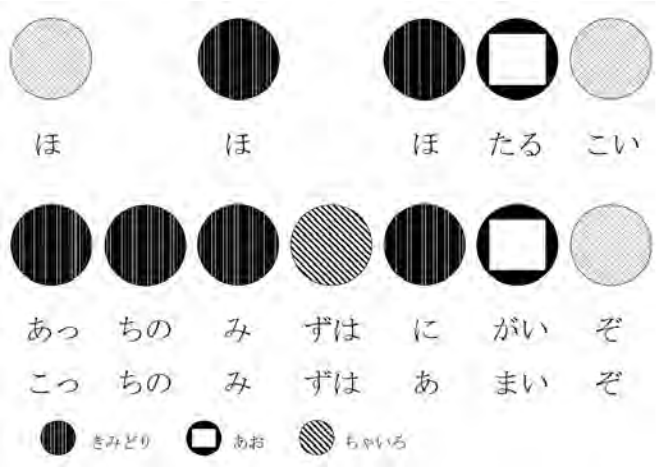
③「箏・ヴァイオリンの体験コーナー」は，一番重点を置く催しである。割当て時間は30分。聴衆をだいたい１/３に分け，一度に約40名が箏またはヴァイオリンを体験する。１つの楽器の体験時間は10分となる計算である。体験用楽器は箏15面，通常サイズのヴァイオリン15丁，分数ヴァイオリン[8]15丁を用意した。箏の体験は兵庫支部の邦楽指導員と御影高等学校箏曲部の担当。ヴァイオリンは筆者と明石フィルハーモニー管弦楽団メンバー（以下「明石フィル」と言う）が指導にあたる。指導の都合上，通常サイズのヴァイオリンと分数ヴァイオリンとで，コーナーを分けて体験を行った。筆者は，通常サイズの担当である。

楽譜１　簡易版「ほたるこい」五線楽譜



さて，ただ構えて音を出すだけでも，楽器の持ち方・重さ・質感・奏法などの体験ができる。しかし達成感を得るために，短くても１曲を通して弾けないかと考え，わらべ歌「ほたるこい」を体験用の曲とした。さらに，「ほたるこい」は４音からなる歌であるが，３音に省略。また言葉に合わせて音符を割り振ると８分音符が入り演奏が困難になるため，全て４分音符になるように，音符に合わせて言葉を割り振った（楽譜１）。

楽譜２　簡易版「ほたるこい」図形楽譜



また，初めての楽器で五線譜を見ながら弾くのは難しいと思われるので，ヴァイオリンの勘所（指を押さえる場所）にシールを貼り，その色と楽譜が対応するような図形楽譜（楽譜２）を用いた。

「左手でヴァイオリンを持ち，肩の上に載せ，あごで挟む」。「右手で弓を持ち，弦の上に載せて動かす。しかも弦に対して直角に動かさなければならない」。ヴァイオリンを構えるということは，日常生活には出てこない動きをするということである。故に説明もしにくく，体験者もなかなかうまく音を出すことができない。初めてヴァイオリンを弾く時は，「扉がきしむ音」，「のこぎりを曳く音」が出ることが多いが，そのような時はリラックスして，できるだけ余分な力を抜いて弓を動かすよう指導する。構え方さえ飲み込めば，左指を押さえたり放したりする動作は比較的容易である。通常サイズのコーナーでは皆，思い思いに「ほたるこい」を弾いており，和気あいあいとした雰囲気で，体験を進めることができた。なお体験終了後の舞台転換時に，大手前大学ダンス部メンバーが，自ら作成した「ダンス検定」の答合わせを行い，聴衆は，待ち時間も気にならずに楽しく時間を過ごすことができたようであった。

図１　体験の様子

④の「みんなで歌おう」は，兵庫支部の声楽指導員の担当である。「BEGIN[9]」の「島人ぬ宝」をフレーズごとに分けてメロディーを指導し，後に通して歌う，という手法で行った。伴奏は明石フィルが担当した。

⑤のポピンズ＆トロイメントは，鍵盤ハーモニカアンサンブルのグループである。リーダーは常田陽子。鍵盤ハーモニカというと，小学校の音楽の時間にやってそれでおしまい，というイメージが強い。しかし現在では，ヤマハやスズキなどのメーカーが研究開発を行い，上位機種の製造・販売がされている。こういった楽器を使ってソロ活動をする者や，アンサンブルを行うグループがあり，教育用楽器の枠を越えて楽しめるものとなっている。演奏曲は主におなじみのディズニーの曲であるが，鍵盤ハーモニカのアンサンブルで聴くと，またちがった印象になり，新鮮であった。

⑥では，ポピンズ＆トロイメントの主導で，「聖者の行進」を聴衆「参加」で演奏した。この曲は使用する音が「ド～ソ」の５音のみで，一定の型でメロディーが構成されており，演奏が容易である。コンサートのチラシに，何か楽器を持ってくるようにと告知したところ，聴衆はリコーダー・鉄琴・鍵盤ハーモニカ・カスタネットなど，思い思いの楽器を持参し，共に演奏を楽しんだ。

⑦の体験ワークショップ参加者による「パプリカ」ダンスはこのコンサートのもう一つの目玉である。兵庫支部では，８月に西宮市内の小学生を対象に体験ワークショップを実施。その中で，大手前大学ダンス部の指導により米津玄師[10]の「パプリカ[11]」ダンスを練習。そしてコンサートでの発表，という流れである。

５．来聴者へのアンケート分析と考察

さて，以上のようなコンセプト・内容で行った「国際音楽の日」コンサートであったが，聴衆にとってどう聞こえ，見えたのであろうか。当日，全ての聴衆を対象に実施したアンケートの結果を見てみよう。

チケットでの入場者91名にアンケート用紙を配布。43名から回答を得た。回答率は47%であった。アンケートの質問事項は下記の通りである。

(1)コンサートの情報源
(2)コンサートの満足度
(3)プログラムベスト３
(4)コンサートで良かった点（自由記述）
(5)コンサートへの希望（自由記述）
(6)居住地
(7)性別
(8)年齢

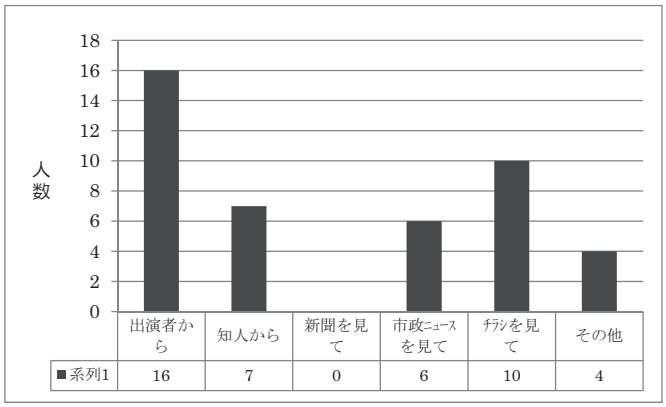


図２　コンサートの情報源

(1)「コンサートの情報源」であるが，集客をセミナー受講生に頼っていることから，出演者から，つまり受講生から情報を得た人が16名（37%）最も多かった。地元紙にコンサート情報が掲載されたにもかかわらず新聞を見て来た聴衆が０人だったのは残念であった。しかし市政ニュースを見て，或いは公民館・学校に配布したチラシを見て来た者の合計が16名（37%）と，出演者から知った者と同数であったことは，10年間ここでコンサートを続け，地元に認知されてきたと言えるのではないか。

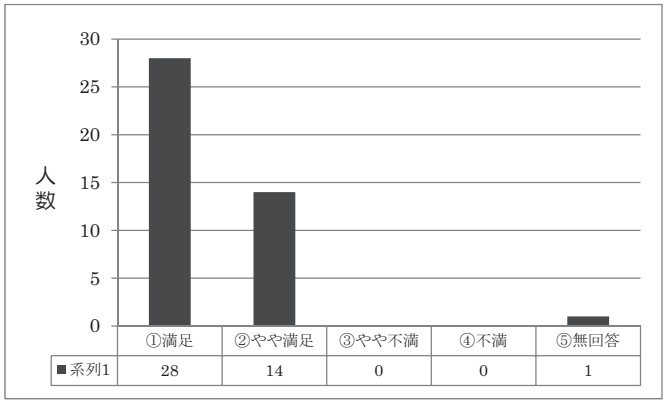


図３　コンサートの満足度

(2)「コンサートの満足度」は，「①満足」，「②やや満足」の合計で42名（98%）である。このコンサートが数字の上では成功であったと言えるであろう。

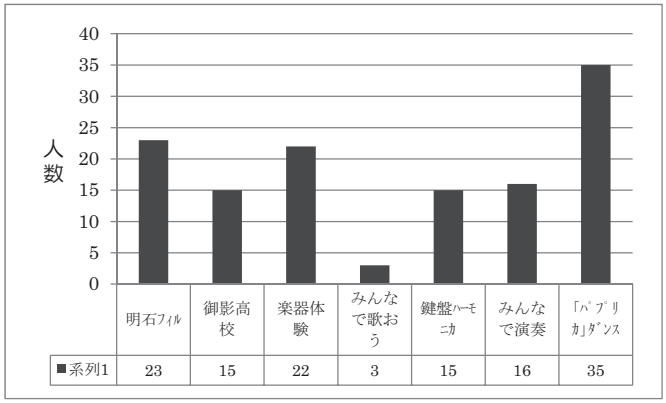


図４　プログラムベスト３

⑶「プログラムベスト３」は，「パプリカ」ダンスが35名（81%）で１位。小学生がダンスを「楽しんでいる」ことが伝わってきた上での数字であろう。次いで明石フィルが23名（53%）で２位。短い時間であったが，参加型プログラムが受け入れられたのではないか。僅かの差で３位が楽器体験で22名（51%）名。弦楽四重奏・箏曲演奏を聴いた後の体験であったので，見た目と実際とが重なり，大いに興味を惹かれたのではないか。このコンサートの目的が達成されたといっていいであろう。

⑷「コンサートで良かった点」（自由記述）は，43名中28（65%）名の回答を得た。「⑶」では，「パプリカ」ダンスが圧倒的に多かったが，この自由記述では「体験型・参加型が良かった」との（又はそれに類する）記述が12名と，一番多かった（反対に，ダンスに関する記述は２名のみであった）。やはり，「受動的に聴くだけ」よりも，「能動的」に参加･体験できるコンサートの方が聴衆にとって楽しめるということであろう。他に，「良い音楽が聴けた」４名，「楽しめた」４名，「全て良かった」２名が肯定的な意見を述べていた。また，「ダンス検定・大学生」が良かったという記述が２名，「鍵盤ハーモニカ」，「高校生の箏曲演奏」，「明石フィル」がそれぞれ１名ずつで，少数ではあったが肯定的な意見を頂いた。「誰目線か分からないゆるいところ」，との記述があったが，「全ての人を楽しませる＝誰にも焦点が当たらない」と考えられるので，今後解決しなければならない問題であろう。

表３　コンサートで良かった点（自由記述）

ID	良かった点
1	子供たちが（伝統的な・本物の）良い音楽にふれる良い機会と思います。
2	子供さんたちのダンスがかわいかったです。
4	クイズは，子どもがとっても喜んでいて，間にはさむのが良かったと思います。
6	参加型なところ。色々な年代の大人と関わりを持てるところ。若い学生さんとのふれあいは，身近な未来を想像できたようで良い刺激になっていました。
7	体験できたこと
8	こども達が音楽を身近に感じることができる良い機会だと思いました。
10	けんばんハーモニカもすばらしかった。
11	手作り感がありとても良かったです。
12	みんなで楽しめたこと
13	楽器の体験ができたこと
14	体験できたこと
15	楽しめました
16	パプリカダンスで子供が１回は最前列にこれたお気遣いをありがとうございます。皆が笑顔で良かったです。
18	なかなか体験できない楽器の体験楽しかったです。みんなでいっしょに楽しめる演奏も楽しかったです！子供たちもかわいかったです。
19	全部良かったです。
20	司会進行の学生さん達元気ではっきりしていて良かったです！お疲れ様でした。
22	ゆるいかんじ
23	誰目線か不明なゆる～い感じ
27	聴くだけではない参加型のコンサートはなかなかないので良かったです。ありがとうございました。
28	関係者の皆様ありがとうございます。
30	音楽を楽しむことができた。
31	ヴァイオリンの体験ができて良かった
34	体験型のプログラム。高校生の演奏。プログラムがバラエティーで豊富
35	全て良かったと思います
36	子どもたちが楽器の生の音に近くで触れることができる点。又,大人も子どもも楽器を体験できる点。箏曲の「螺鈿」音が楽しく美しい。たこフィルの演奏では,いくつかの種類（ジャンル）の音楽が聴けた点。「村祭」が大好きです。子どもたちへのご指導などありがとうございました。
38	みんなで参加できるコンサートで,子供が楽しめる工夫がたくさんで,子供が最後までノリノリでした。
41	参加型で子供が楽しめて良かった。
42	参加できて楽しかった

⑸コンサートへの希望（自由記述）は，15名からの回答があった。「コンサートへの希望」と書いたが，「こうしてほしい」，「ここを改善して欲しい」などの建設的･批判的意見を期待するところである。

「来年も参加したい」などの肯定的記述は６名であった。批判的意見は，まずプログラムに関することで，「子どものヴァイオリン演奏がなかった」と「歌に工夫を」がそれぞれ２名。前者に関しては，ワークショップでのヴァイオリン練習成果を聴きたかったということであろう。今年のワークショップ実施が２回だけであったので，完成度を考えてヴァイオリンの発表は見送ったのであるが，保護者からすれば「せっかくやったことを見せて欲しい」ということであろう。また後者では，選曲・歌詞への振り仮名など問題点が指摘された。両者とも来年へ向けての改善点として受け止めたい。

運営に関することは，「進行の段取りが悪かった」と「空調が寒かったがそれぞれ２名。少ない人数での運営であるので，今回は運営・設備に関して十分な配慮ができなかったのは事実である。メンバーの意思疎通・役割分担の明確化・設備に関する知識の習得など課題は多いが，今後に向けて改善したい。

表４　コンサートへの希望（自由記述）

ID	コンサートへの希望
1	これからも続けられますように。西宮以外でもされているのでしょうか。
2	楽しいコンサートありがとうございました。
6	ヴァイオリンを練習したようですが，子どもたちの演奏が聴けなかったのは，少し残念です。
7	もう少し段取りがスムーズであればいいかな
8	また来年も参加させてもらいたいと思います。
10	子供達のは，去年の方が練習回数も多くてみごたえがあってよかった。バイオリンをまたやってほしい。
16	「みんなで歌おう」子供は振り仮名がないとついていけません。もう少しメジャーな曲にするか
20	かけ声は，「エンヤーサッサー」ではなく，「イーヤーサーサー」です。
21	４年生になっても成長がイマイチと感じる日々。時折，扱いづらくなりつつあります。来年はどうか？と去年も同じことを感じる。
22	運営をしっかりしていただきたいと思いました。
30	バイオリンのワークショップがあったが当日聞くことができず残念だった。
34	冷房が寒い
35	バイオリン・琴の体験がよかった
38	皆さん手弁当とのこと。本当にすてきな時間をありがとうございました。
41	席に座っている間が寒かった。

⑹ 居住地は，西宮市内が34名（79％），市外が５名（12％），無回答が４名（９％）であった。地域に密着したコンサートということで，地元を中心にチラシ配布などの宣伝活動をした結果，この数字になったのであろう。地元新聞社のコンサート情報で告知を行ったが，他地域への効果はなかったようである。聴衆を増やす目的であれば，宣伝について方法を考えるべきであろう。

⑺ 性別は，男性12名（28％），女性27名（63％），無回答４名（９％）であった。女性の方が２倍強と多い。男性も楽しめるプログラムの開発も必要であろう。

⑻ 年齢は，40才代が一番多く14名（33％），次いで30才代が７名（16％），後は０才以上が３名（７％），10才以上～20才以上が０名（０％），50才以上が４名（９％），60才以上が３名（７％），70才以上が３名（７％），無回答が９名（21％）であった。10代・20代の聴衆が皆無であった原因は何処にあるのだろうか。全ての世代にアピールするコンサートが開ければ，それはすばらしいものになるであろう。プログラム，宣伝方法について考えなければならない。

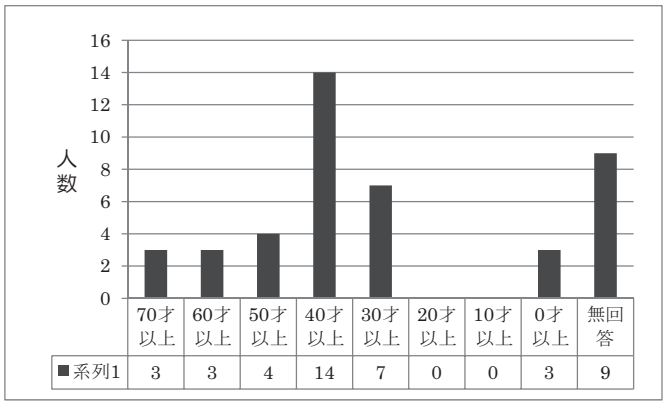


図５　年齢構成

６．おわりに

聴衆へのアンケートで，企画面では多数の支持があり，このコンサートの目的である体験型・参加型コンサートによる生涯学習の「きっかけ」作りは，一定の成果を得たと思われる。しかし，運営面では問題点が浮き彫りになった。来年に向けて，改善点・改善方法を検討しなければならない。

この「国際音楽の日」記念コンサートを開催した目的は，ひとえに「音楽を楽しんでもらいたい」，「音楽を楽しむ人を増やしたい」というところにある。楽器を体験することで，今まで関心がなかったことに興味を持つかもしれない。演奏に参加することで音楽することの楽しみを見つけられるかもしれない。例えば，新たに楽器を習ってみようという人がいるかもしれない。しばらく中断していたが，また演奏したいと思う人も出てくるかもしれない。

「コンサートを聴きに来る」ということは，もともと音楽が好きな人たちかもしれない。しかしそういう人たちがこのコンサートを体験し，友人･知人･近所の人に「あのコンサート良かったよ」，「また来年あるからいっしょに行きましょう」などの声がけをすれば，音楽に興味がない人も「行ってみようかな」と考えるかもしれない。そうした「きっかけ」の提供こそ，大切なのではないだろうか。

生涯学習は，それを行っている本人がそれと気づかない場合もある。目的のあるなしにかかわらず，知らず知らずのうちに生涯学習を行っている，音楽を楽しんでいる，そのような社会が来れば，それはきっと「平和」な社会なのであろう。

引用・参考文献

・淺香淳編：1982：『新音楽事典 人名』，音楽之友社，東京.
・今西幸蔵：2017：『生涯学習入門【改訂版】』，（株）法律文化社，京都.
・海老澤敏他監修：2002：『新編 音楽中辞典』，音楽之友社，東京.
・米山光儀：2016：「生涯教育という概念と生涯学習という概念」，『よくわかる生涯学習 改訂版』，香川正浩他編，ミネルヴァ書房，京都.
・佐藤晴雄：2016：『生涯学習概論［第１次改訂版］』，学陽書房，東京.
・嶋﨑譲：2010：『音楽の学びを知る －「国際音楽の日」と生涯学習音楽指導員－』，（財）音楽文化創造，東京.
・鈴木しおり：2001：「文化庁『国際音楽の日』に関する一考案：

旭川市における平成12年度文化庁記念公演の実施を通して」,『生涯学習研究と実践:北海道浅井学園大学生涯学習研究所研究紀要』Vol.1，169-184.
・関口礼子他：2018：『新しい時代の生涯教育［第３版］』，有斐閣アルマ，東京.
・玉木裕：2008：「生涯学習の視点からみる音楽科教育 －音楽振興法とフィンランドの教育思想をとおして－」,『北翔大学北方圏学術情報センター年報』Vol.1，69-81.
・玉木裕：2012：「音楽振興法からみる高等学校芸術科『音楽Ⅰ』の実際 －生涯学習社会における音楽の授業のあり方を探る－」,『北翔大学北方圏学術情報センター年報』Vol.4，105-114.
・高萩保治，中嶋恒雄編著：2000『音楽の生涯学習 理論と実際』，玉川大学出版部，東京.
・文部科学省：2006：「教育基本法」,『生涯学習・社会教育行政必携（平成20年度版）』43-46，第一法規（株），東京.
・山本恒夫：2001：『21世紀の教育学シリーズ③ 21世紀生涯学習への招待』，協同出版（株），東京.
・山本恒夫編：1998：『新現代図書館学講座Ⅰ 生涯学習概論』，東京書籍，東京.
・内閣府：1988：「昭和63年度 世論調査 生涯学習に関する世論調査（昭和63年９月）」，2019/10/10検索，https://survey.gov-online.go.jp/s63/S63-09-63-11.html
・内閣府：2008：「平成20年度 世論調査 生涯学習に関する世論調査（平成20年５月調査）」，2019/10/10検索，https://survey.gov-online.go.jp/h20/h20-gakushu/index.html
・内閣府：2018：「平成30年度 世論調査 生涯学習に関する世論調査（平成30年７月調査）」，2019/10/10検索，https://survey.gov-online.go.jp/h30/h30-gakushu/index.html
・公益財団法人 兵庫県芸術文化協会：2019：「平成30年度事業報告書」，2019/10/10検索，https://hyogo-arts.or.jp/main/data/30_jigyouhoukoku.pdf
・「沢井忠夫」,『Wikipedia』，2019/10/10検索，https://ja.wikipedia.org/wiki/%E 6 %B 2 %A 2 %E 4 %BA%95%E 5 %BF%A 0 %E 5 %A 4 %AB
・「米津玄師」,『Wikipedia』，2019/10/10検索，https://ja.wikipedia.org/wiki/%E 7 %B 1 %B 3 %E 6 %B 4 %A 5 %E 7 % 8 E%84% E 5 %B 8 %AB#cite_note-prof- 4
・「BEGIN（バンド）」,『Wikipedia』, 2019/10/10検索, https://ja.wikipedia.org/wiki/BEGIN_（%E 3 %83%90%E 3 %83%B 3 %E 3 %83%89）

註

1）Paul Lengrand（1910-2003）：フランスの教育思想家。ユネスコの成人教育長。生涯教育という概念を体系的にまとめ，提唱した。

2）日本に於いては，用語としての「生涯教育」と「生涯学習」が混在していた時期があった。昭和56（1981）年の中央教育審議会答申はその条文の中で，「生涯学習」は学習活動，「生涯教育」は生涯学習を支援する活動である，と定義している。その４年後，臨時教育審議会が昭和60（1985）年から４回にわたって行った答申では，「生涯学習」の用語のみが使われるようになり，それ以降，「生涯学習」が定着した。「教育」の用語では受動的な印象があり，「学習」では自発的・能動的な活動と取れることから後者が広まった，というのが通説である。

3）2013年４月，内閣府の認可を受け公益財団法人に移行。

4）現在，B級･C級の新規募集を停止。代わりに，地域音楽コーディネーター制度を新設し，認定している。

5）Yehudi Menuhin（1916－1999）：アメリカ生まれ，イギリスのヴァイオイリン奏者，指揮者。両親はユダヤ系ロシア人。８才でデビュー。第二次世界大戦後，ユダヤ人社会の猛反対にもかかわらず，ナチス･ドイツ崩壊後初めてのユダヤ系演奏家として，フルトヴェングラー指揮のベルリン・フィルハーモニーと共演した。社会的活動としては，「国際音楽の日」制定時，彼はIMCの会長を務めており，音楽演奏以外にもさまざまな方面に関心を寄せる国際人として知られる。

6）発足は2004年で，当初は「生涯学習音楽指導員研究会ネットワーク兵庫」という名称で活動を行った。2015年に現在名に改称する。

7）沢井忠夫（1937-1997）：箏曲家，作曲家。沢井箏曲院の創始者。

8）ヴァイオリンは，奏者の身長によって使えるサイズが決まってくる。通常サイズ（大人サイズ）の楽器は４/４で，150㎝前後から扱うことができる。それより小さい楽器は分数ヴァイオリンと呼び，およそ身長100㎝で１/10，110㎝で１/８，120㎝で１/４，130㎝で１/２で，140㎝で３/４の目安で使用する。

9）BEGIN：沖縄県石垣市出身の３人からなるアコースティックバンド。「涙そうそう」,「島人ぬ宝」等のヒット曲がある。

10）米津玄師（1991-　）：シンガーソングライター，イラストレーター，映像作家。徳島県出身。2018年発表の「Lemon」が，その年最大のヒット曲となる。

11）「〈NHK〉2020応援ソング プロジェクト」の一環として，米津玄師により作詞作曲された曲。小学生５名からなるユニットFoorin（フーリン）によるダンスバージョンが公開されると，一躍小学生の人気No.1となった。